

フェアプレーを 学び、実践しよう!!



佐野 優子さん
(バレーボール)

フェアプレーは
生活のすべてにある

フェアプレースクールは、全国の小・中学校、特別支援学校を(元)アスリートが訪れ、フェアプレー精神を広めるJSPPOの活動です。今回は2020年1月17日、沖縄県の東村立東小中学校でバレーボール元日本代表であり12年ロンドン五輪銅メダリストの佐野優子さんが講師となり開催した際の模様をお伝えします。

東小中学校は沖縄本島の北部にあり、女子プロゴルフで活躍した宮里藍さんの母校でもあり



フェアプレースクールは、生徒がフェアプレーのエピソード作文を発表したり、講師が自身の体験を語りたりする時間と、体育館で実際に体を動かしながらフェアプレーを体感する時間の2部構成です。最初の時間は、まず生徒を代表して4人がエピソード作文を発表。それぞれの部活動や家庭での親とのやりとりなどの体験を通して、どうしたらフェアプレーを実践できるのかといった課題や感想を述べました。これを受けて佐野さんは「フェアプレーはスポーツ

だけではなく、学校や家庭での生活でも当てはまるものです。相手の気持ちを思いやるのがとても大事です」と笑顔で語りかけました。

授業に向かう姿勢が レベルの高さに

次は、6人ずつのチームに分かれバレーボールの試合を通してフェアプレーについて学ぶ時間。好プレーには相手味方関係なく拍手を送りました。佐野さんは「バレー部員だけじゃないのに、レベルが高いなと思いました。生徒の皆さんが授業に真剣に取り組んでいるなと感じました」と感想を話しました。



感動するのは心が動くから

佐野さんは「全力で戦い、いい試合になれば、見る人を感動させられます。感動するというのは、心が動くから。心が動くというのは相手に気持ちが伝わるからです」とのメッセージを伝えました。参加した3年生の若林美幸さんがあるんじゃないと分かってよかったです。2年生の比嘉一斗さんは「負けても握手することは大事だと分かりました。それぞれにスクールでの体験を語りました。



共に助けあって前進しよう

ラグビー

2019年秋、千葉県富津市近郊は大型台風で大きな被害を受けた

リーダー的存在であるFWの堀江選手は台風被害の報道を見て自分のできることはなにかと考える...

その復旧支援に立ち上がったのがラグビーW杯2019で史上初のベスト8に入った日本代表の6人のメンバーたちだ

日本代表の仲間にも声をかけたのだった

ボランティアに参加しようと思っただけじゃなく、一緒に行きましょ

代表メンバーにとってはW杯が終わりとやら体休められる時期だったが、彼らは力仕事のボランティアに積極的に名乗り出た

重いものなら任せてください!

自分たちにもできることがあるのありがたい!

NINE

ラグビーは困っている人、孤立している人がいたら共に助けあって前進していくという精神が宿るスポーツ

まさにラグビーならではのスポーツマンシップがあらわれたエピソードである

「One for All, All for One」(ひとりみんなのために、みんなはひとりのために)という気持ちで

みんなのフェアプレー精神で大変な時期を乗り越えよう

※左から北出卓也選手、松田力也選手、堀江翔太選手、稲垣啓太選手、田村優選手、流大選手